

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 病院局長の報告書から

副市長を除く特別職から、毎月、報告書の提出を受けています。病院局長の最近の報告書に、次のような記述がありました。

「最近が高齢者の患者さんが多くなり、認知症が増えていますので、看護・介護に随分エネルギーを取られます。また高齢者では、どの程度まで処置や手術を行うべきかを迷うケースもあります。例えば、90歳を超える患者さんにどの程度までの手術を勧めるべきか。明らかに長期の延命は難しい状態の患者さんに、延命的な処置をどの程度まで行うべきか、等に悩みながら判断している症例があります。通常は院内で相談し合いながら、いわゆる常識的な線を導き出そうとしていますが、ご本人やご家族の意向を尊重することを重視して対応しています。中には、身寄りも殆どなく、意思表示が難しい症例もあります。」

患者の入院が2週間を超えると入院基本料の単価が下がり、市民病院の収入にも影響が出ない訳ではありませんが、それでも、患者さんのかけがえのない命と向き合い、「あるべき医療とは何か」を模索する医療チームの姿に、死生観を超えて、熱い感動を覚えました。

■ 急患診療所について

平成22年1月、市民病院の東隣に、「山陽小野田市急患診療所」を開設しました。科目は内科（高校生以上）と小児科（中学生以下）のみ。内科は、平日の午後7時から10時半まで。

小児科は、日曜日と祝日の午前9時から午後5時まで。土曜日はお休みです。

この急患診療所で受診された患者数は、今年の4～6月の3か月だけで604人。昨年の同期も602人。開設者としては、地域医療の一翼を担っていると自負しています。症状の出た時間帯などの理由で、かかりつけ医が利用できないときなど、どうぞご利用ください。

※詳しくは広報「さんようおのだ」毎月1日号、または市ホームページをご覧ください。

■ 漂着物の片付けについて

昨年3月に東日本の被災地から流出した漂流物の多くが、太平洋を渡り、遠くアメリカ西海岸に漂着したことは、報道でみなさんご存知のとおりです。規模はずっと小さくなりますが、先日、九州で降った豪雨のため、多くの竹木材が海に流出し、一部が本市の本山岬海岸部に漂着しました。かなりの量が堆積しており、早期の対応が必要ですが、現地は機械の搬入が困難なため、市役所職員50～60人の人力で、土のう袋に入れたりひもで縛ったりして搬出する計画を立てました。しかし、今はあちこちで熱中症がでている状態。職員の健康への配慮から、私の判断で作業を少し先に延期させてもらいました。どうぞしばらくお待ちください。

対話の日

8月27日(月) 19:00～
保健センター